

リーズ・トリニティ大学（イギリス）

<履修状況>

(1) Mind, Self and World

【内容】基礎的な哲学者の考えを、Mind, Self, Worldという3つの観点から分析、批判し、現代につながる哲学の考えや見解を深める授業。

【授業形態】前半スライド授業、後半ディスカッション

【生徒数】8

【成績評価方法】前期；ポートフォリオ（500words×4）後期；エッセイ（2000 words）

(2) Understanding Human Behavior -social/developmental

【内容】社会心理学と発達心理学の基礎。様々な学者の実験や調査をもとに、現代人の社会の中の心理やそこに至る経緯などを紐解いていく。

【授業形態】主にスライド授業、途中意見交換の時間あり

【生徒数】約50-60人

【成績評価方法】授業後のクイズ、5週に1回の総まとめクイズ

(3) Language: Gender and Sexuality

【内容】過去から現代にいたる言語学、性、ジェンダーの研究から、性やジェンダーが言語の中でどのような役割を果たし、影響されているかを理解する。

【授業形態】主に生徒中心のディスカッション、途中教授のスライドによる説明あり

【生徒数】10

【成績評価方法】前期；3000wordsの論文、後期；3000wordsの研究分析

(4) Identities and Inequalities

【内容】個人と社会の関係性を、様々な社会的問題から読み解いていく。

【授業形態】前半スライド授業、後半ディスカッション

【生徒数】7

【成績評価方法】前期；グループプレゼン、後期；1500wordsのレポート

火曜日が全休、それ以外はすべて授業がありますがすべて午前中です。
1コマ平均1時間半-2時間半です。

東海大学（台湾）

英語の授業では、それぞれの授業の進め方がようやくわかってきました。英語がナチュラルスピードで話されるため、いまだ苦戦しています。そこで、よく使われる表現や専門用語をノートにまとめるなどして覚えていき、授業の内容にもっと集中できるようにしたいと思います。また、自分の意見が求められることがあります。現在英語を聞くことで精一杯になっていて、考えることがうまく出来ていません。そのため、自分の意見をはっきりと持つことを次の目標にしたいと思います。

中国語(台湾華語)については、週に6時間しかないということもあり、授業内容はあまり進んでいませんが、語彙が少しずつ増えていることを実感しています。

東海大学は11月第二週に中間試験期間があります。試験ではありませんが、11月中に私が取っている英語の授業の全てで中間プレゼンテーションがあります。そのための準備でとても忙しくなっています。

ヒューロン大学（カナダ）

ヒューロン大学のJapanese Culture Club (JCC)や日本語会話クラブに参加し、たくさんの友達を作ることができました。日本文化が大好きな友達だけではなく、同じく日本から留学しに来た学生とも知り合う機会でした。また、ヒューロン大学ではthanksgiving dinnerやLondon museum Trip, Niagara Falls Tripなど留学生向けのイベントが毎月行われ、友達作りやカナダの文化を理解するチャンスがたくさん提供されています。授業や課題でのストレス解消のためにはsocial communicationが大事だと感じました。

ベネチア大学（イタリア）

10月も後半になってくると、空気が冷えはじめ、雨もたびたび降るようになり夏が去り、秋・冬のシーズンに突入してきたのだと肌で感じました。半袖のみでは心もとなく、上着の着用も必要になってきました。季節の変わり目ということで風邪を引かないように食事と睡眠には特に気を使って生活しています。

食事に関しては多少手慣れてきて、作れる料理のレパートリーも増えてきました。近所のお店でお米やカレールウ、マヨネーズなどが手に入ることも分かり、日本食も頻繁に食べるようになりました。しかし、野菜や果物をあまり摂取できていないため栄養の偏りがやや見られることが懸念点だと感じています。

ルーヴァン・カトリック大学（ベルギー）

英語、フランス語の二足の草鞋で頑張っています。英語の授業でやったプレゼンでは、何度もパートナーと練習した甲斐がありフィードバックで良い評価を頂きました。フランス語の授業は最近になりやっと楽しいなと思えるようになりました。フランス語の先生は沢山のことを教えると同時に、学生にこれでもかというほどアウトプットの機会をくれるので一回一回の授業で得られる知識量と実践力が大きいです。この調子で来学期は一つ上のクラスに入れるよう勉強します。

フライブルク大学（ドイツ）

予想はしていましたが、授業についていくのはとても大変です。受講生はドイツ人や他のヨーロッパの国出身の人がほとんどで、英語はネイティブと同じくらい流暢に喋ります。それに加えて、授業で扱う内容はアカデミックな内容なので、先生や他の生徒が発言していることを理解するのに苦労しています。グループディスカッションでは自分の意見を積極的に発言することを心掛けています。また、1つの授業における課題（次回授業までに読まないといけないテキスト）の量が非常に多く、20~30頁が普通です。最初は他の講義も受講しようと考えていましたが、1つの授業の負担量を考えると、今はこれくらいの時間割がちょうどいいのかもしれないと感じています。空きコマはたくさんありますが、その時間を無駄にしないように、図書館に行って、課題を終わらせるために費やしています。今は大変ですが、これをこなしていけば、自分の英語力はもちろん、得るものは大きいと思っているので何とか頑張ろうと思っています。

English Coursesと体育の授業は、息抜きのような感じで、楽しみながら受講しています。